

資料紹介

吹上浜の亀



カメ目ウミガメ科 アカウミガメ
Caretta caretta(Linnaeus,1758)



工学部海洋土木工学科では3年生を対象に1975年(昭和50年)から吹上浜(鹿児島県日置市吹上町)において夏に海岸測量実習を行っています。この亀は1989年(平成元年)の実習時に見つけたもので、浜にテンと座っているように見え、実物を初めて見た学生にとっては想像以上に大きを感じたらしく大騒ぎになりました。もちろんすでに死亡しており、臭いもしていました。何という学名の亀かは分からぬけれど剥製にして学科の玄関に飾ったらどうだろうということになりました。早速、地元の教育委員会に申請して許可をもらつたあと、鹿児島県内の業者にたのみましたが腐敗が進んでいて剥製にするのに苦労したようです。さらに、折角だからケースに入れるようになりましたが、ケース代の方が剥製代の三倍もかかってしまった経緯があります。今回、学科の玄関においておくよりも博物館で展示してもらったほうが大勢の方の目に留まるだろうと思い寄贈したものです。

工学部海洋土木工学科 櫻井仁人

今回、工学部海洋土木工学科より寄贈された「吹上浜の亀」を総合研究博物館では今後、学術標本として登録(KAUM-VE 32)し、活用して行きたいと思います。

本標本(甲長 約85cm)は、肋甲板が5対あること、甲長が甲幅より長いこと、頭部が著しく大きいことなどの特徴からアカウミガメと同定できます。アカウミガメは全世界の海洋に広く分布しますが、太平洋における産卵場は日本とオーストラリアが知られているのみです。本標本がみつかった吹上浜は、鹿児島県内ではアカウミガメの重要な繁殖地として知られています。吹上浜での産卵期は5月末から7月末で、本標本が成体であることから、繁殖のために接岸し何らかの原因で死亡したものとみられます。また、左側の第9および第10縁鱗付近の甲羅が大きく欠損しており、不完全に再生しているのは、幼体・亜成体期に遭ったサメ類などによる捕食圧や船舶のスクリューなどの人工物による影響であると思われます。

なお、アカウミガメはワシントン条約附属書Iに記載され、国際希少野生動物に指定されています。鹿児島県でも絶滅危惧II類にカテゴリーされており、近年上陸・産卵個体数の激減が確認されています。

本村浩之